

子罕第九

子曰、歳寒。然後知松柏之後彫也。

子曰わく、としまむく 歳寒して、
しか のち 然る後に、しようばく しぼ 松柏の彫むにおく 後るるをし 知る。

(9-233)

< 子曰わく、歳寒して、然る後に、松柏の彫むに後るるを知る >

Q : 「子曰わく、歳寒して、然る後に、松柏の彫むに後るるを知る」とは何ですか。

A : (1) 「孔子が言った。春夏の季節には、樹木はすべて葉を茂らせているので、区別することはできないが、寒くなると、落葉樹の中にまじる常緑樹である松柏の存在が、はじめてわかる。(それと同じように人間も、危険困難な状況になって、はじめて、その本性がはっきりするものである)」の意。

(2) 「時節が寒くなると初めて松かやや柏が、他の草木は枯れしぼむのに、後までしぼまないで残っていることがわかる。このように、大事に遭遇して初めて君子の節操があることがわかるものだ」の意。

(3) 「歳寒」とは、気候が寒くなったの意。世の中が乱れたことを喩える。

(4) 「松柏」、柏はわが国ではかじわだが、中国ではかや、ひのきなどの常緑樹。

(5) 「国乱れて忠臣あらはれ、家貧しくして孝子出づ」ということが言われるが、祖国の混乱や自家の貧窮はありがたくないけれども、どんなことに出合っても変わらぬ節操と、発揮できる価値は持ちたいと念願したのが孔子であった。